

佑啓

ゆうけい

発行者
 社会福祉法人 佑啓会
 理事長 里見 吉英
 〒290-0265
 千葉県市原市今富 1110-1
 TEL 0436-36-7611
 FAX 0436-36-7612
 編集者 広報委員会

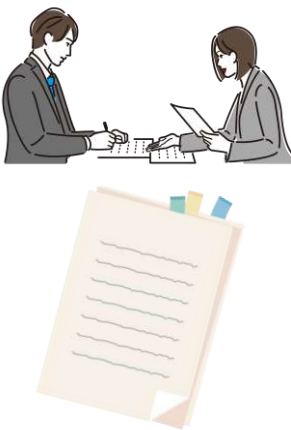
エシカル

三股金利

去る九月二十二日、文京区障害福祉課長さんからお呼びが掛かかりました。昭和生まれの私にとって、役所というところは敷居が高く、あまり笑わない人たちが机にかじりついて働く場所という印象が強いのです。学校でいえば職員室のようなもので気分転換にちよつと行ってみるかという場所ではありません。高校の時には体育教官室という強面の集まる部屋もありました。ここへ入る前には大声でクラスと名前を言ってから入室しなければなりませんでした。部の練習中に呼び出されてドアを開くと、たばこの白い煙と七輪でサンマを焼く青い煙が充満しています。一升瓶を立てている先生の前に立つと「けまり(サッカー)なんかやってないでこつちの部へ来い」と妙に優しいのです。断ると雨の後のグラウンドの整備が悪いと怒られました。あれから比べたら役所は天国です。

町のコロナ支援金の振込間違いのように、「もらったものは返さないうか、きちんとした文書に基づき手続きをしますので、とまことに丁寧です。

役所だって人間のやることだから当然間違いはあります。それを鬼の首を取ったような態度をとる小日本人が多くなってどうしたものでしょう。一つはこれだったので安心。渡されたレジュメには項目ごとに要約がついているので一瞥して本日のメニューが分かります。しかし、安心は禁物です。最後に『その他』とありますから。ここには表に出しづらいことが隠されていることもあるのです。



事前に要件は電話で知らされたので手続きに基づき返金してもらいたいとのこと。もともと当方の書類の間違いに端を発していたのですから当たり前です。どこの

伝えたい事は以上ですが、に続いてインスタグラムをよく見ているのですか。うれしいコメントです。「すべてうちの職員の手によるものです。」自分が関わっていないく

もちよつと胸が張れました。そんなやり取りから、エシカル消費のテーマで動画を公募しているの応募を考えてみてはどうですか。「エシカル」初めて聞いた言葉です。知らない言葉に頭が混乱しましたが知ったかぶりもできず懸命に動画になりそうな言葉を探します。フィジカルでもない、トロピカルでも、サブカル、シニカル、あらいぐまラスカル、見当違いの言葉ばかりが浮かびます。白旗。



世の中の変化にはついていけないことがたくさんあります。障害者や高齢者に優しい街づくりと言いつつ、新しいことが苦手な立場を置いてきぼりにしているところが年々増えていると嘆かざるを得ません。カタカナ言葉の意味が分からず、対面で行ってきたサービスが機械に替わり、なぜ困っているのか伝える相手がいなくなり、予約もインターネット。JRの駅も全体の半分が無人駅だといえます。自動券売機の操作ができずに行列ができ、あたふたする人の後ろでイライラする若者。人がロボットに変わり給仕までするレストラン、少子高齢化を何とかしようとする一方で人がいらぬ社会に突き進む矛盾。

いつからか人が財産でなくなり、コストとなった人がさらなるコスト削減に力を注ぐ。革新が生み出す社会に人間として生きるフィールドは残っているのでしょうか。

説明を聞くとSDGsの項目の一つで倫理的消費行動のことを指すのだといえます。倫理。高校の教科にあった倫理社会。みんなが赤点の厳しい先生であったことと、政治家や公務員の倫理観が世間をにぎやかしていた頃を思い出します。我々にも倫理綱領というものがあります。確固たる倫理観をもって・・・とモラルを質しているのです。この言葉が出てくる時は倫理そのものの観念が怪しくなった時だと戒めなければなりません。



ところで、どんなことが倫理的消費行動なのかを理解しなければいけません。その前に私はどんな考えで買い物や外食などをしていったのか振り返ってみましょう。空腹感によって食べたいものを食べ、よく調べもせずぱつと見でなくても購入。暇なときはコンビニでも寄っていらぬものまで買ってというような時もしばしば。しかもそれが習慣化しています。新しいことよりも安心できるし、そもそも考えることを忌避しているからです。よほど興味があれば時間をかけますが自分が主体で、その行為がどんな結果をもたらすかを意識したことは一切ありません。生理現象のような消費行動の連続でした。誰が何と言おうとその点は自信が持てます。ドントストップミーナウ。

「これからの人生それでいいのですか。」洗礼を受けたような気がしました。それではエシカル消費のお勉強をしましょう。同じお金をつかうなら人にも社会にも地球にもやさしいほうがいいに決まっていますよね。今まで安くて質の良いものがあればという視点だけで購入してはいませんか。製品ができる過程で労働者に過酷な環境があります。そんな裏話は聞いたことがあってもいざ買う時には忘れていきます。地域でできたものに関心を持つなどもそうですね。商店街の肉屋の揚げたてコロッケおいしかったですね。残念ながら商店街は衰退の一途です。なるべく海洋汚染などの原因にならないような自然由来のものでできた製品を購入することもそうですね。ただ、こうした考えが浸透すれば解決となるのでしょうか。労働環境の改善が必要なのにいきなり不買状況が続くと働く場所が無くなるという状況も起きかねません。現在のプラスチックを木製にするには自然の痛みを伴わないでしようか。庶民は物価高に困っています。お母さんはチラシで遠くの安いところまで足を延ばしています。余裕のない生活ではエシカルどころではないでしょう。理想と現実はこちらにもあります。さてどうしましょう。

「これからの人生それでいいのですか。」洗礼を受けたような気がしました。それではエシカル消費のお勉強をしましょう。同じお金をつかうなら人にも社会にも地球にもやさしいほうがいいに決まっていますよね。今まで安くて質の良いものがあればという視点だけで購入してはいませんか。製品ができる過程で労働者に過酷な環境があります。そんな裏話は聞いたことがあってもいざ買う時には忘れていきます。地域でできたものに関心を持つなどもそうですね。商店街の肉屋の揚げたてコロッケおいしかったですね。残念ながら商店街は衰退の一途です。なるべくなるべく海洋汚染などの原因にならないような自然由来のものでできた製品を購入することもそうですね。ただ、こうした考えが浸透すれば解決となるのでしょうか。労働環境の改善が必要なのにいきなり不買状況が続くと働く場所が無くなるという状況も起きかねません。現在のプラスチックを木製にするには自然の痛みを伴わないでしようか。庶民は物価高に困っています。お母さんはチラシで遠くの安いところまで足を延ばしています。余裕のない生活ではエシカルどころではないでしょう。理想と現実はこちらにもあります。さてどうしましょう。



人にやさしいという視点に立てば、障害者に関係することも含まれます。自立支援法以来、工賃を上げるために各施設で生産活動も活発になりました。しかし、配慮して購入していただいてもいつのまにかゴミとして出されるような商品では二度と買っていただけ

ないでしようし、食品ならば尚更気を遣うでしよう。今回は社会にこうした動きがあるということに初めて気づきました。実践できることからというのが現実路線なのかもしれませんね。

倫理という言葉はどうしても人を縛るというイメージがあります。しかも綱領などと硬い言葉と一緒に額に入れられている気にならなにか見張られている気がしてなりません。監査で尋ねられるので一応掲示はしています。自然体で皆さんと付き合ひ、喜怒哀楽の時間を共有する。感情のコントロールさえできればどこかの市長のような暴言もでないでしよう。

しかし、現場では我慢することの連続もあります。ですから仲間どうしで愚痴も言いたいですし、酒の力も少しは必要です。昔からカタイ職業の人たちほど宴会はハデでした。居酒屋さんにもそのランキングを聞いたこともありました。が想像にお任せします。

昨今の行動抑制で昔のように発散する場がなくて困ります。我慢の生活が人間性に影響していることを身をもって感じています。

倫理的消費行動も大事なことなのかもしれません。が、りんりんり夜も眠れず、ということにならなければよいのですが。

(大塚福祉作業所 所長)

ふる里学舎での

経験と感謝

有馬 恒夫

ふる里学舎でお世話になってから早や二十年、ふる里学舎も三十周年を迎え、その歩んだ年月の重さに改めて感謝の想いが強くなっています。コロナ禍で子どもたちの帰省や各種行事・レクレーションに制約がかかり始めてきた期間はなおさら「感謝」を繰り返しても足りることはありません。



自宅の庭でみかん狩り

【ふる里学舎との出会い】

ふる里学舎との出会いは千葉市の養護学校(現在特別支援学校)の保護者三十名ほどで開所して数年後に見学に行ったことです。まだ施設の整備が進行中の時でした。職員の手が加えていた頃でした。その時の里見理事長の保護者へのメッセージに「今までに苦労してきたのだから十五歳になったら施設に預けてもつと楽になりなさいよ！」があり、学校卒業後の行末に選択肢があるのだとほっとした気持ちになりました。

PTA・親の会などの語らいの中で、養護学校在学中から船橋市O学園・千葉市N学園での短期入所生活体験版を試していました。中等部の本人(息子・久貴、現在三十九歳)をN学園へショートステイした直後大雨の中、親子三人でふる里学舎へ利用相談・見学に行きました。当時、松橋さんの案内で新しい居住環境を

見て心躍る思いでした。久貴は日頃から排便障害の傾向があったのですが、初めて訪問した施設で何と「ウンチ」をしたのです。きつとアットホームな雰囲気を感じたのでしようか。本人も「ここがいい！」と言いたげでした。養護学校高等部の卒業後の進路に保護者の語らいが続いた頃でした。しばらくはデイサービス通所で凌ぐしか選択はありませんでしたが、卒業二年後によりやく声がかかり市原二寮で生活ができるようになりました。保護者としては本人と離れる不安と安定した環境で預けられる安堵感で一杯でした。

【家族会などの経験と学び】

ふる里学舎入所と同時に「家族会」へも入会しました。養護学校時代にはPTA・親の会活動にも障碍児の親の動機付けで自分なりに努力してきましたが、入所等施設の家族会には新入りとして溶け込めるかな、と不安もありました。最初にふる里学舎の利用者家族一泊旅行の際も同じ気持ちでした。しかし、宿泊ホテルの大宴会で見た多くの家族・本人が一堂に会した賑やかな懇親の集いには息子も目を丸くして大はしゃぎでした。その後も家族そろっての毎年の楽しい行事となりました。

家族会では入会後三年目から役員への誘いを受け、以後微力ながら役員を続け現在に至りました。家族会では会計担当を続けながら多くの方々とも知り合いになり、また行事の度に多くの学びを経験しました。

【我が家の宝物】

我が家で息子の写真を撮ろうとしても本人はその度に顔を背けて真正面の写真をなかなか撮らせてもらえません。しかし学舎の行事等で職員の方のカメラにはなぜか笑顔の姿を見せます。これまでふる里学舎で撮ってもらった息子の写真はとても大切なものです。コロナ禍では帰省が減った分、写真を愛おしく眺めています。特に最高傑作の爆笑写真は「デイズニーシーでのクシャクシャな笑顔」です。こんな写真、よくぞ撮れたものだと感じていました。我が家の「額に入れた宝物」となりまして。まさに感謝の一言です。



デイズニーシーで満面の笑み

【家族会ふる里ポケット基金の誕生と願い】

十五年ほど前の利用者家族一泊旅行の際の家族会役員会の席上、里見理事長から「学舎で利用する子どもたちの中には保護者の支援がない子たちも増えてきている。その子たちへも家族会が手を差し伸べてほしい」との助言があり、家族会に新たな課題が加わり「ふる里ポケット基金」が誕生しました。旅行・レクレーション参加に当たって、家族会の心ばかりの支援がポケット基金を通して学舎で生活する仲間に分け隔てなく楽しい時間を届けられることになりました。そのほか災害時の支援や夏のスイカプレゼントなど、保護者の願いが新たな企画を含むポケット基金に成長しています。

【コロナ禍での若い職員へのエール】

本人子どもたちの日々の生活で最も深くかわっているのはふる里学舎の若い職員です。毎日の食事・作業・余暇時間など、子どもたちを飽きさせないように工夫を凝らしていただいていると思います。特に外出が制限されたコロナ禍の時期は皆が忍耐の連続だったと思います。若い職員には明るく優しく寄り添っていただき保護者は感謝しかありません。家族会からも「職員へのエールの言葉」を送らせていただきました。これからの生活を見守っていただきたいと熱望するものです。

(ふる里学舎2寮 保護者)

三年ぶりの

一泊旅行!

皆川 洋輔

「皆川さん、今年は旅行あるの?」毎年、八月の納涼祭が終わるとある利用者から質問がくる。昨年も同様の問いがあったが、コロナ禍でもありとても施設外に出ていく事はできない状況。「今年も一泊旅行は無理ですね、来年行けるかどうか」と話したのを覚えている。

思い返せば佐啓会の利用者一泊旅行には三十年の歴史がある。

毎年欠かさず旅行を継続し伝統としてきた。時にはハワイにも行った事があると聞いている。つい数年前には観光バス八台をチャーターして、山梨県や栃木県に行った覚えもある。八台が連なって高速道路を走る姿は大名行列のようだった。そんな思い出もコロナウイルスの影響により令和元年を最後に中止となっている。

利用者からの熱い要望を受け、里見理事長に行事の企画を持ち込むと「今年こそ行くぞ!」と力強いお言葉を頂く。「しかし、コロナウイルスが収まった訳ではないので社会の厳しい視線を浴びるかもしれない。それでも我慢してきた利用者の為覚悟を決めて実現しよう。」とお話を頂き、入所者の鴨川一泊二日旅行が確定。問いのあった利用者へ伝えると歓喜の声を上げ、私自身も気分は高揚していた。

とは言ったものの、三年ぶりの利用者一泊旅行。これまでの資料を読み返すも企画、準備の感覚も忘れてしまった。職員を合わせ一九〇名の旅行の企画。簡単そうに見えてこれがとても奥が深い。ホテルを含めた業者とのやりとり、案内文の作成、班編成、宴会時の座席、宿泊時の部屋割り、そして職員余興等々。準備を進めるうちに行程通り上手く行くのだから心配になり提案書を見つめる。しかし、忘れてはいけないのは「利用者がいかに楽しく過ごせるか」。行事担当職員のやつつけ仕事にしてはいけない。利用者が楽しむ姿

をイメージしてチーム一丸となって準備を進めた。



晴天の下、笑顔でハイチーズ!

そして旅行当日。天気は晴天!絶好の旅行日和!朝の打ち合わせで利用者の体調を確認すると朝四時頃から起きて旅行準備している方や出発まで待たずにソワソワしている方も。寮に行けば皆さんからの元気な挨拶!溢れんばかりの楽しそうな雰囲気。いざ出発!途中休憩を入れながら鴨川シーワールドに到着。バスを降りると一面に広がるブルーオーシャン。様々な生き物が息する水族館を見て、シャチやイルカのショーを鑑賞。シャチのショーを見て全身びしょ濡れになる職員もいて全員で楽しんでる事を実感。その後、各班毎に鴨川グランドホテルにチェックイン。温泉に入り、贅沢なひと時を過ごす。(しかし、この裏には日々の温泉での入浴付き添いに職員はバタバタ。夕食は一九〇名の大宴会。美味しい食事を頂きながらお酒が進む。続いて宴会の目玉である若手職員十二名による余興。モーニング娘「ラブレポリッシュ」を揃ったダンスでパワフルに披露。一昔前の曲にはなるが、これが利用者の心を掴み大盛況。旅行に行く事が決まったと同時に準備が始まり、時には夜に公園でも練習していたという程。それほど力を入れていた為か十二名のダンスは切れもよし、ボーカルもよし。そんな中、普段表情を変えない利用者が自らステージに上がり職員と一緒に踊り始める。担当している職員はこの利用者の意外な一面を見て感動。その後も笑顔で踊り続け



おやつ美味しいね♪

曲が終わるまで喜びを最大限に表現し、全員が大満足の宴会であった。翌日はホテル内を満喫し沢山の土産を手持ちふる里学舎へ。利用者の皆さんは満足の表情を浮かべ、また来年への期待を膨らませる。その後、保護者からは感謝のお言葉を頂き、充実した旅行になった事を実感する。

三年ぶりの一泊旅行。まずは里見理事長の利用者への強い思い、覚悟なくして実現はされなかった。そして一九〇名の旅行を怪我無く無事に終える事ができたのは職員が一丸となって支援した成果。ふる里学舎には「利用者を真ん中に」という理念に、職員がまとまり行動する組織風土がある。旅行の歴史を踏襲するのはもちろんの事、佐啓会の理念をこれからも若手職員にも繋ぎながら、行事だけでなく日頃の支援にも活かしていく。ふる里学舎の理念、組織力を、一泊旅行を通じて再確認する場となったように感じる。来年も皆さんに喜んでもらえる素晴らしい旅行ができるよう職員一同で企画していきたい。

(ふる里学舎 係長)

編集後記

念願の「日常」が戻ってきた嬉しさを感じた秋。利用者も職員も溢れんばかりの笑顔に囲まれた瞬間でした。そんな日々が過ぎ、気が付いたら年の瀬を迎えようとしています。来年もまた笑顔溢れる一年を過ごすことができれば...そんな願いを込めて佐啓一二二号をお届けします。

(支援員 依田育美)